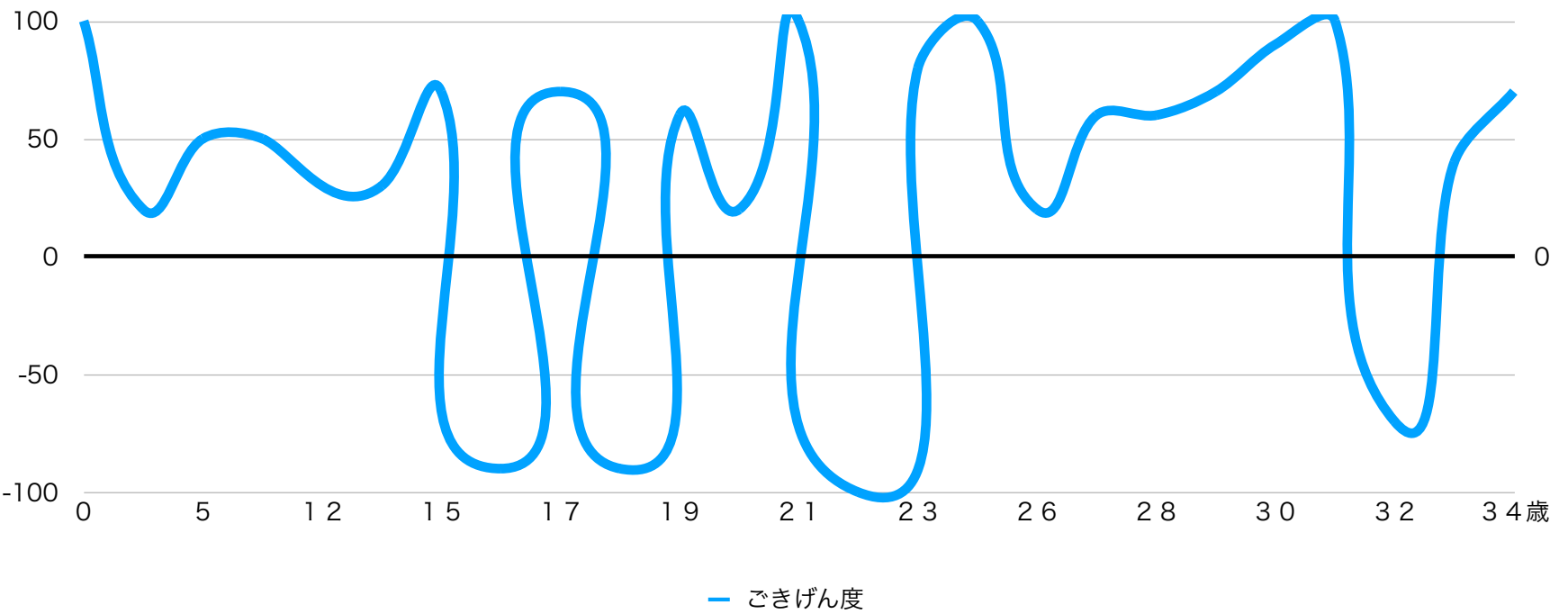


雅史



雅史

年齢	ごきげん度	
0	100	春、日本に生まれる。 子煩悩で仕事好き、好きなこととことん追求する父と、 我慢強く子ども好きな看護師の母との間に、 三人兄弟の2番目に生まれる。
3	20	妹が未熟児で生まれる。 日本昔話とグリム童話をこよなく愛し、 物語の中に自分を登場させて妄想するのが自分の居場所だった。 内気で人に面と向かって話すのが苦手であるものの、 文章にのせるといくらでも心が自由に動き出す才能は、 このころの妄想壁が影響していると思われる。 頭脳明晰で学力優秀な兄と愛され上手な妹のはざまで、 居場所がないような幼少期を過ごす。
5	50	幼稚園の給食がパンの時に吐く。その時にパンと牛乳が大嫌いになる。ご飯を食べるのが遅く、いつも居残りさせられて給食を食べていた記憶がある。山中先生が大好きだった。 お遊戯会ではドレスや着物の女の子に憧れるも 「それがやりたい」とは言い出せない控えめな女の子であった。 体操クラブや英会話クラブのような華やかなクラブに憧れるも 実際に自分がしていたのは鼓笛隊のピアノであった。

年齢	ごきげん度	
10	50	<p>内弁慶な性格で、家ではワガママもイヤなものはイヤだと騒ぎ立てるが、一歩家の外に出ると借りてきた猫のように大人しくなるのであった。他人の前で自分を表現するのは苦手であった。</p> <p>自分の家と、外の世界との間に、非常に分厚い扉を作る性格であった。</p> <p>小、中学生のときも控え目にすごし、ありのままの自分をごく少数の仲良しの友達や、先生以外の前で表現することは少なかった。</p> <p>自分の世界と、外の世界を大きく区別して認識していたものと思われる。学力も優れていたが、特に国語や図工、家庭科が得意であった。没頭できるもの、夢中になれるものにはとことん夢中になっていた。これは父親の影響を受けているものと思われる。</p> <p>また、負けず嫌いな性格はこのころからあり、算数の九九の計算の競争ではいつも上位にいた。人より優位に立つのが好きであったが控えめな性格ゆえ、自分を出せずに悩むことも多かった。</p> <p>小学生の頃からメガネをかけており、地味な自分の姿がコンプレックスであった。こだわりも非常に強く、いつもロングヘアを後ろで1つに束ねていた。</p>
12	30	<p>小学生卒業前に、男の子の友人にからかわれたことがきっかけで、男性と話すのが苦手になる。中学に入るとちょっとしたことで兄と大げんかし、あまりにもこわかったために以来数年間に渡りお互いに存在を無視するようになる。それもあり、ますます男子と話すのが苦手になり、同時に酷く緊張するようになり、男性と話すと顔が赤くなってしまい、それがイヤで近づかなくなっていった。</p> <p>そろばん、書道を習う。本当はピアノとかバレエを習いたかったが、ダメと言われ習えなかった。</p>

年齢	ごきげん度	
13	30	<p>中学生になると、 余計に外見コンプレックスは強くなり、 メガネにくせ毛、ニキビ肌に酷く悩まされ、 そんな自分を嫌がり、苛立ながらも、 何もできない、どうしていいかわからないまま とにかく控えめに控えめに日々過ごしていた。</p> <p>中学生の頃から 生きる意味が見いだせず苦しい日々を過ごしていた。 愛とはなにか、 どうして生きることはこんなに苦しいのか、 そんな思いを、新しい物好きな父が買ってきたパソコンの インターネット上で公開するようになる。</p> <p>チャット上、インターネット上ではなんでも自分を表現できる気がしており、どっぷりはまる。 自分でホームページを作ったり、日記を日々投稿したり、詩を作ってはサイトに投稿していた。 すると、いろんな人が自分に関心を持ってくれ、 文章を褒められたり、素直な表現に心を打たれたと感想をもらうようになる。 自分を表現することで、世界に受け入れてもらうことの喜びを この頃知るようになる。</p>
15	70	<p>高校受験時に猛烈に勉強をがんばり、 希望の高校に入学する。 それとともに、高校デビューを実行。 ストレートパーマにコンタクトレンズ、 がんばって男子とも話すがうまくいかなくなりまた避けるようになる。</p> <p>ほんとは、恋もしたかったのに、 いっぱい話したかったのに、 勇気が出なかった。</p>
16	-90	<p>高校在学中に、半保健室通いになる。 酷く生きづらく、成績も落ち、 将来が見えず、授業中も寝てばかり、 そんな自分を責めるようになる。 保健室の先生だけは 私の話を聞いてくれた。</p> <p>死にたい欲が強く、 保健室の先生に送ったメールで 外部のカウンセリングを紹介される。 保健室の先生に連れられて 箱庭をしたり、話を聞いてもらったりする。 遅れていた勉強も教えてもらった。</p> <p>「私ってやっぱり普通じゃないんだ。もうダメなんだ」</p> <p>そんなことを思いながらも なんとか高校を卒業。</p> <p>振り返ると、内弁慶なくせに、我が強くわがままで嫌なものは嫌で、弱いものに強く強いものに弱く、ずる い性格だったので、まあまあ最低な人間だったと思う。</p>
17	70	<p>高校の卒業旅行で手にした父のデジカメ。 そこで写真に興味を持ち、 バイトをして自分のデジタルカメラを購入。 空や風景などを撮り始める。</p>

年齢	ごきげん度	
18	-90	<p>ほんとうは、製菓学校や専門学校に行きたかったけれど安定志向の親と祖母の話を聞き、大学受験。</p> <p>一本狙いの国公立を受けたが不合格。滑り止めの滑り止めの短大だけに合格。プライドはズタズタ、浪人するほど気力もない、早く卒業して早く働いてみんなよりお金稼ぐぞと短大に通い始める。</p>
19	60	<p>短大では写真部に所属。実家の近所の写真屋のおじさんと仲良くなり、写真にはまっていく。おじさんが褒め上手でどんどん撮りまくる。フィルムの1眼レフを購入する。背景をボカす撮影方法にはまる。</p> <p>短大に入ると、バイト三昧な生活を送るようになる。今まで我慢してたものが爆発したかのように、イベント派遣のバイトが楽しくて授業そっちのけではまる。</p> <p>人と会うのが楽しかった。だけど怖がりな部分もまだあり、なかなか思うように人間関係はいかなかった。</p>
20	20	<p>写真関係の会社を狙い就活するが数社不採用になるともう嫌になって就活をやめる。将来自分で雑貨屋を開くんだ、その勉強のために正社員じゃなくフリーターとして勉強するんだ！とやりたいことをやるんだと自分を納得させ、短大卒業後は大阪の雑貨屋でアルバイトとして働く。が、1年も経たないうちに辞めることになる。お客さまからの電話に対応できなくなりパニックになる。号泣してどうにもならない状態になり帰宅させられる。そして心療内科デビューをし、うつ病と診断を受け、アルバイトを辞める。</p> <p>病院に通い大量の薬を飲みながら自分を殺して生きていた。</p> <p>生きる価値がない自分は食べてはいけない、と1ヶ月で10キロほど体重を落とし、ガリガリになった自分の姿がうつくしいと勘違いしながら生きる。1年ほど実家で休養してから当時付き合っていた遠距離恋愛の彼氏のもとへ行き、関東の地方で同棲するようになる。</p>
21	100	<p>同棲するようになると、うつ病が回復。勝手に薬を減らしていき、車の免許を取ったり研究所で働きながら、新妻のようなことをして楽しく暮らす。</p>

年齢	ごきげん度	
22	-100	<p>研究所で働いている時、簿記の勉強にハマる。2級を取得する。</p> <p>そのうちに 「正社員として働いてみたい」という思いが現れ 「全国転勤の仕事をしている彼としては雇ってもらえない。大阪帰る」と、 彼とまた離れ実家に戻る。 そして会計事務所の正職員として勤め始める。</p> <p>が、 すぐに彼にすきな人ができたと言われふられる。 もう死ぬと、家族や友だちを巻き込み辛い日々を送る。</p> <p>暗黒時代へ突入と思われたが、 私にはもう写真しかない。 死ぬ前に自転車で行ける所まで行ってみよう。 カメラをぶら下げて。 写真撮りに、いこう。 やるだけやって、死のう。</p> <p>と、意味のわからない行動をとり、 真夜中に家を飛び出し、 2駅ちょっと走ったあと、 疲れたので帰宅する。</p>
23	80	<p>そしてその後 とにかく写真を撮りまくる。 何かを忘れるように、 新しい出会いのために、 写真展に出展しまくった。 とにかく、 新しい出会いが欲しかった。</p> <p>そこではじめて、 自分の写真が思いのほか評価されることを知る。 はじめての出展はとてもこわかったけれど、 想像以上に評価され、どこに行ってもチャホヤされ、どんどんはまっていった。</p> <p>運命の写真屋さん、ナベカメの店長と出会う。 駆け込み寺として多に通いまくる。</p> <p>あたらしいカメラを手に入れ 自宅での花の撮影にどっぷりはまる。</p> <p>いつでもできるその花の撮影は わたしから煩わしい感情を遠ざけてくれた。 頭を埋め尽くす苦しい思考を 一瞬にして取り払ってくれた。</p> <p>まるで麻薬のようだった。</p> <p>出会い欲しさに始めた写真活動をする中で、恋もする。 会計事務所では人間関係のトラブルをよく起こす。入社当時にいた人からほとんどすべての人とトラブルをおこす。所長には可愛がられ給料も順調に上がり、初めての一人暮らしも始める。</p>
24	100	<p>写真企画展の人気投票で1位をとる。個展開催権をもらい、個展を開催する。</p>

年齢	ごきげん度	
26	20	<p>心屋仁之助師と出会う。 テレビで発見し、ブログを読みあさり、即会いにいった。</p> <p>カウンセラー養成コースを通して、 私は自分をひとつも信用していなかったということに気がついた。 他人の言葉をあまりにも素直に信じこみ、 その通りにできない自分はダメなんだと、 一生懸命他人軸で生きようとし、 自分というものを見失っていたから いつも苦しかったのだと。</p> <p>カウンセラー養成コースに通う中で 5年勤めた会計事務所を退社、 昔から大好きだった京都へ移住、 会社に勤める道以外選択肢になかった私が、 カウンセラーとして、 また写真家として生きていく道を選んだ。 ダメならまた勤めればいやと、思いながら。</p> <p>それまでずっと自分の人生に遠慮し 自分の力を過小評価し 自分はこんなもんだと思って生きていたのを 疑うことからはじめていった。</p> <p>「写真で稼ぐのは無謀」</p> <p>その呪いは強力だった。 だけど、やってみたかった。</p> <p>まずは、 心屋先生になんとか言われた 個展で入場料を取る、ことからはじめた。 そんなことしてる人はあんまりいなかった。 でもやった。</p> <p>次に、 人を撮影してお金を頂くことにした。 2013年の7月頃からはじめ、 個人撮影8,000円のモニター価格からはじめていった。 正規価格3万円にすると、 依頼はガクンと減った。</p> <p>会計事務の派遣社員を週4日ほどしながら 写真の仕事をしていたが、 京都を一望できるステキなデザイナーズマンションでの 一人暮らしは、貯金を切り崩していく生活だった。</p>

年齢	ごきげん度	
27	60	<p>今のパートナーたけしくんと出会う。 もうやばい、 もう来月こそ家賃が払えないかもしれない。 というときに、武家に転がり込むことになり難を逃れる。</p> <p>「頼る」ことを 勇気を出してやる。 いろんなこわいことはあったが もう自分じゃどうにもできなかつたので諦めた。</p> <p>同居し始めて3ヶ月くらいで 派遣社員を辞めることを決意。 2014年10月頃退社。 また写真一本でやっていくことにした。</p> <p>そこで「写真に写るお稽古 みやびの撮影会」を考えだす。 写真に写るのが大嫌いな写真家みやび監修の撮影会。 写真は慣れ、 そして 自分のステキな写真が撮れた時の 心や身体に与える影響を 自らいろんなレッスン受講や撮影体験をして知る。</p> <p>2014年冬、 あつという間にみやびの撮影会は満席多数の 大人気イベントとなる。</p>
28	60	<p>撮影会で東京へ行くようになり、 とあるセミナーで運命の出会いを果たす。 あれよあれよと話が進み、 2時間の無料コンサルで、 ビジネスコンサルの先生と100万円の契約を交わす。 そのとき通帳にあったのは数万円。 だけど、 運命を変えたくて、 ただそれだけで契約を決める。</p> <p>コンサルで生まれた撮影とカウンセリングを組み合わせたサービス 「目で見るカウンセリングコース」が2015年2月にリリースされ、順調に申し込みをいただく。</p>
29	70	<p>会社を辞めてアメリカに短期留学をした武くんに会いに、はじめて海外旅行に行く。 サンフランシスコ、ニューヨークの街の雰囲気にはびりながらも、満喫する。 ニューヨークでモデル体験をする。大きな教会前で撮影をしてもらう。</p> <p>武くんに手伝ってもらいながら撮影会を多数開催する。</p>

年齢	ごきげん度	
30	90	<p>札幌に頭を生花で飾り付けて写真を撮るプロジェクトHANANINGENを体験しに行く。ものすごく感動し、その場にいた代表に「関西でやってほしい！」とラブコールを送る。撮影後もメッセージでお礼と関西でやる時お手伝いしたいアピールをする。数ヶ月後、京都で武くんとHANANINGEN KYOTOをオープンすることが決まる。</p> <p>ドイツのアルプ湖でプロポーズしてもらおう。結婚、法人設立。HANANINGEN KYOTOの準備に向けクラウドファンディングを行い、目標200万円をたった2週間で達成。最終290万円を支援してもらおう。</p> <p>ヘアメイクを大阪まで通い習得する。スタジオ撮影（ライトを使った撮影）を覚える。装花も教えてもらおう。</p> <p>京都一乗寺にAKIZUKI galleryをオープン。HANANINGEN KYOTOな毎日を送る。</p> <p>テレビ出演やラジオ出演や、ライブ装花など忙しい毎日をすごす。</p>
31	100	<p>猫の花ちゃんと出会う。自分と同じ誕生日、思い描いていた通りの子を見つけ、運命を感じて迎え入れる。にゃんだふるらいふがはじまる。</p> <p>スタジオを移転する。以前入ったことのあるお店が賃貸に出ていて、みるだけ～と思っていったら「どうしてもここに引っ越したい」と思うようになり、なんとか引っ越す。</p>
32	-70	<p>花人間の人、と言われるのが苦しくなってきたのと、自分が生み出していないものを続けていくことができなくなった。器用に物事を進められない自分に嫌気がさし、鬱々と生きる。</p> <p>武くんとも衝突することが多くなり、ある日突然「辞めます」と言われ悩んだ挙句2018年末でHANANINGEN KYOTOを卒業することになる。</p> <p>辞めてスッキリし、自分たちの仕事をどんどん生み出す。黒猫のむーちゃんと出会い、迎え入れる。</p>
33	40	<p>上がったたり下がったりしながら、写真の仕事を続ける。誘われて80万円の出版ゼミに通う。大嫌いで苦手な環境の中で、ひたすら言葉を磨く毎日を過ごす。写真に写ることで、女性の自分嫌いを癒すような本を作りたいと試行錯誤する。大嫌いで苦手なプレゼンを2日目に自分でも満足のいくよう成功させる。その後のフォローがうまくできず、出版には至っていない。</p> <p>本を出版する覚悟も、やる気も、今は全然ないことをその後自覚する。</p> <p>仕事のスタイルが定まる。好奇心の新陳代謝が高いと自覚し、固定した撮影プランをやめ、プロジェクト形式でその時やりたいことをやるようになる。</p> <p>いつ死んでもいい。はやく人生が終わってほしい、と思春期ごろからずっと思いながら生きてきたが、「もしかして、わたしってしぶとく生きるタイプなんじゃ・・・？」と気づき始め、どうせ生きなければいけないのなら、やりたい放題で幸せな時間を多く過ごしてみようと思う。</p>

年齢	ごきげん度	
34歳	70	<p>毎日毎日、自分の心に正直に生きる生活を行う。</p> <p>やるときはやり、サボりたいときはサボり、そのときやりたいことに集中し、丁寧に心に従う決断を行う。</p> <p>コロナの自粛期間中に、撮影がまったくできなくなったので、メイク（主に眉）をオンラインで教えるようになる。人の眉の描き方をチェックする楽しみを知る。</p> <p>今まで自分だからできているんだと思っていたメイクの技術などを、他人にわかりやすく伝えるには？ということを考えるようになる。</p> <p>作家さんの器の撮影の仕事始める。</p> <p>女性のみためを美しく整える仕事をしておきながら、「見えないもの」にフォーカスするようになる。</p> <p>2000人以上の一般女性の写真撮影に関わってきて、いくらこちらがいいところを褒めたり、いい仕事しても結局「本人が自分で自分をどう思うか」なんだということを再確認し、見た目と共に心の内側から満たせるようなことをしようと日々あれこれ考える。</p> <p>少しずつ自分の扱い方がわかってきた予感。</p>